



2年で稼げるイチゴ農家に! / 紀の川アグリカレッジ

紀の川市の新規就農者向けプログラム

● 紀の川市ってどんなところ?

清流・紀の川の流域に開ける紀の川市。
和歌山県北部に位置し、北は大阪府、
西は和歌山市に隣接しています。
温暖な気候と紀の川がもたらす豊
かな大地を利用した農業が盛ん
であり、トップブランド「あら川の
桃」をはじめ、はっさく、キウイ、柿、
いちじく、イチゴなど年間を通して
四季折々のフルーツが収穫できる
全国有数のフルーツ王国です。

紀の川市

子どもの医療費
など子育て支援
も充実!

豊富な
観光資源

一年中が収穫期
のフルーツ王国!

● 紀の川市の生活

充実の医療体制



2次救急医療体制を備
えた総合病院をはじめ、
多くの医療機関が市内
にあり、安心して医療の
提供を受けることができ
ます。

子どもの 医療費助成



市内に在住する18歳ま
での子どもの入院費、
24歳までの学生等の入
院費に係る医療費の助
成を所得制限なく受け
ることができます。

教育環境



紀の川市には、保育所
(園)が12か所、小学校
が15校あります。また、
中学校・高等学校・大
学も市内にあり、教育環
境が整っています。

豊富な観光資源



桃源郷の桃の花、ホテル
鑑賞、葛城山のハイキン
グなどの自然だけでなく、
有名な「たま駅長」や
「いちご電車」などが走
る和歌山電鐵の「貴志
駅」など観光資源も豊富
です。

紀の川市へのアクセス



お申込み
お問合せ

TEL 0736-77-2511

紀の川アグリカレッジ事務局
(和歌山県紀の川市役所 農業振興課内)

Mail k080500-001@city.kinokawa.lg.jp

H P https://kinokawa-agri-college.com



紀の川市でイチゴ生産がオススメな理由

point
01

イチゴ産地の
栽培技術が学べる

紀の川市は県内イチゴ生産
No.1!
産地で培われた栽培技術が
身につきます。

point
02

高単価の品種が
生産可能

紀の川市で就農し、いちご生産
組合に加入すると、和歌山県内
でのみ生産が許されている収益
性の高い品種を生産できます。

point
03

豊富な販売先
がある!

JAへの出荷、国内最大級の直売
所への出荷、市場への出荷など
自身の経営スタイルに合わせて
様々な出荷先を選択できます。

イチゴ農家の経営

イチゴ生産は初年度から
売り上げがたち、特別な販
路開拓も必要がないため
新規就農者にオススメの
品目です。

紀の川市は、和歌山県内
で最もイチゴの生産が盛
んで、実習先では10aあた
りの売上が700万円にも
なる経営者もいます。

初年度	初期コスト	3,400万円
	規模	13a
	売上	648万円
	所得	272万円

3年後	規模	20a
	売上	1,620万円
	所得	1,043万円
	所得	1,043万円

1年目(平均面積15a)

総売上600万円

所得162万円

規模拡大・
技術向上

3年目(平均面積20a)

総売上1,140万円

所得433万円

※所得を保証するものではありません。

募集要項

研修名	紀の川アグリカレッジ
研修期間	1年：農業経験者・親元就農予定者向け 2年：農業未経験者向け
研修内容	【1年コース】 ・イチゴの栽培技術を習得する実習 【2年コース】 ・新規就農に必要な農業や経験知識に関する座学研修 ・イチゴの栽培技術を習得する実習
実習場所	和歌山県 紀の川市内のイチゴ農家
研修対象者	・18～45歳未満(45歳を超える方でもご相談ください) ・研修修了後に紀の川市で就農する意思がある方 ・外国人の場合は永住権を取得していること、 日本語で問題なくコミュニケーションが取れること ※「就農準備資金」を活用する場合には、独立時の年齢が50歳未満であることが条件になります。
募集定員	募集定員 3名程度
受講料	無料
資金サポート	年間180万円 ※受給には審査があります (「就農準備資金」及びわかやま版新規就農者産地受入体制強化事業による給付)

紀の川アグリカレッジについて



イチゴ農家として、紀の川市で就農を目指す方を対象とした研修です。

農業経営において必要な知識が身につくように設計されたカリキュラムとなっており、修了後も
手厚いサポートが受けられます。

就農希望者が多く、収益性の高い品目である「イチゴ(まりひめ)」を主とした研修で、稼げる農
家になるための実践的な実習研修を行います。

紀の川アグリカレッジの特徴

プロ農家のもとで実践的な 農業を学ぶ



紀の川市内のイチゴ農家のもとで、栽
培技術が学べます。

資金サポート



研修中は、国の資金に加えて和歌山
県独自の資金制度もあり、あわせて年
間180万円の資金援助が受けられま
す。(受給には審査があります)

農業経験に合わせて2コース (1年/2年)があります。

- 1年コース：農業経験者・親元就農予定者
- 2年コース：農業未経験者

※研修修了時に農地が見つからなかった場合、見つかる
までの間、JAの研修ハウスで働くことが可能です。

座学で農業に必要な知識を学ぶ



農業経営に必要な力を座学研修で
習得できます。
農業の知識だけでなく、財務や事業
計画づくりについても学べます。

修了後の継続支援



研修中はもちろん、修了後も紀の川
市新規就農者受入協議会が主体と
なって、経営をサポートします。

農業に必要な各種資格取得を 支援します



フォークリフト、大型特殊免許等の資
格取得の機会を提供します。
※資格取得にかかる費用は自己負担

カリキュラムについて

農業に必要な4つのチカラ「農業力」「経営力」「地域力」「独立力」を座学研修で習得!

農業力

イチゴの基礎知識はもちろん、
農業の基礎知識も学べ、独立
に必要な農業力が身につく。



カリキュラム例

【栽培基礎】
栽培の基礎知識、農業機
械の操作方法

【イチゴの栽培理論】
イチゴ栽培を座学研修
や実習で身につける

経営力

経営者に必要な経営戦
略、財務、マーケティング
などの知識を学ぶ。



カリキュラム例

【会計・財務】
決算書の見方、農業会計
の基礎を学ぶ

【経営基礎】
経営に必要な考え方、経
営戦略を学ぶ

地域力

地域のことを知り、行事
に参加することで地域住
民と繋がる。



カリキュラム例

【地域文化】
地域の歴史・文化を知
る

【地域活動】
地域のイベント・集まり
へ参加する

独立力

独立に向けた事業計画
づくり、土地の取得、資金
繰りなど全面サポート。



カリキュラム例

【事業計画づくり】
独立に向けた事業計画
のつくり方について学ぶ

【独立準備】
補助金の種類や独立に
必要な資材等の確保など

——農家になろうと思ったきっかけは何ですか？

結婚ですね。奥さんの実家が農家で高校を卒業してから働いていた仕事を辞めて、20歳の時から農業をはじめました。農業未経験だったので、はじめは「すべてが難しい」と感じました。ただ、コツコツと継続して一つのことを極めるのが好きなので、農業は自分に合っていました。

——イチゴ生産を始めたきっかけは何ですか？

自分自身がイチゴが好きで、おいしいものを作りたいと思ったからです。奥さんの実家はお米やイチジクなどを作っています。

——イチゴの栽培技術はどのように身につけられたのですか？

義父は農家でしたが、イチゴの生産はしていなかった。近所のイチゴ農家さんに教えてもらいました。すべてが難しく、毎年1年生の気持でした。肥料を変えてみたり環境制御をしたり、常に色んなことを試しています。新しいことを試すのは怖いですが、試さないとより良い選択ができないので、良いことはどんどんやっていきたいと考えています。



いわつる fam.
岩鶴 和昭さん (40代)

- 栽培面積 30a (土耕・高設)
- 出身地 和歌山市
- 就農時の年齢 20歳

価値を高めて
自分の名前で売る。
そのために新しい
ことを試し続ける。

全部自分でしようと気張りすぎず、うまく人に頼ることで事業がうまくいくと信じています。

自分の名前で売るために
市場に直接出荷

——岩鶴さんはどのように販売されているのですか？

市場に直接出荷しています。JA出荷と違い自分で営業しないといけないので難しい部分がありますが、岩鶴和昭のいちごとして販売したかったので、市場出荷を選びました。近くのカフェに販売することもあります。また、お客さんからのダイレクトな反応を感じたいと思います。観光農園も始めました。



——今後の目標を教えてください。

観光農園も大規模化していきたいと考えています。収入を上げることもちろんです。より多くの方に自分がつくったイチゴを届けるために規模の拡大を考えています。売上1億円は目指したいですね。最終的にはイチゴの価値を高めないと、収入は増えないので自社でのEC販売も始める予定です。

イチゴ生産は難しいが、安定している

——紀の川市は農業を始めるのに良い町だと思いませんか？

はい、農業しやすい町だと思います。人気の直売所「めっけもん広場」も有りますし、農業が盛んな町なので困ることはありません。私自身、農業未経験からの就農だったので難しいこともたくさんありましたが、周りのサポートもあってこれまで続けてこれました。

大阪も近いですし、生活していくのにも困りません。市民祭りなどのイベントはありますが、都会の方が想像されているようなものではなく、町のイベントという感じです。

——就農を検討している方に、アドバイスをお願いします！



一つのことを突き詰めるのが好きな人に、イチゴ生産は向いていると思います。

頑張れば頑張った分だけ結果が出るし、イチゴ生産はやるべきことをやれば売り上げもきちんと上がる安定した品目だと思います。自分に教えられることは教えようと思っているので、真面目な人・農業に真剣に取り組みたい人に来てほしいです。生産をできるだけ自動化できるように、色々とシステムを導入しているので、環境制御や自動化のシステムを学びたい人にはいいと思います。



いちご生産農家
奥 佳樹さん (40代)

- 栽培面積 36a (土耕・高設)
- 出身地 紀の川市
- 就農時の年齢 26歳

地域に貢献できる
若者を育てて
一緒に成長して
いきたい。

祖父の代から農業を営む土地で
親元就農

— 就農されたきっかけを教えてください。 —
祖父の代からイチゴを栽培しており、私は長男なので疑問をいただくこともなく父から引き継ぐ形で就農しました。両親は現在も農作業を手伝ってくれていますが、17年前から私がメインで経営をしています。

— イチゴの栽培技術はどこで身につけたのですか？ —

基本的には父と一緒に作業をしながら身につけましたが、経営を引き継ぐ前に外部研修にも参加しました。当時は土耕栽培をメインで行っていましたが、高齢の両親にとってかがんで作業するのは負担が大きいため、将来的に高設栽培ができればいいなと思い、大塚化学(株)で高設養液栽培の研修を受けました。

効率を重視し連棟ハウスを導入、
若い人に憧れる仕事をした

— 奥さんが就農されてからこだわっていることや変えたことはありますか？ —

私が就農したときは一般的なパイプハウスでしたが、作業効率を高めるために

栽培規模が大きいのが強み、
地元出身だからできるサポートも
積極的に行います

— 就農を検討している方に一言お願いします！ —

私の圃場は栽培面積が広いです。そのため、実習にきていただくたくさんの苗を見て、実際に管理することができるので、その分多くの経験を積むことができます。例えば、一つの病気にしても「この状態だったら廃棄しなければいけないけど、この程度ならまだ様子を見て大丈夫」など、たくさんイチゴを見ることで、細かい違いなどもしっかりと学べると思います。

私の知っている知識や技術は、教えられる限り研修生に教えてあげたいと思います。

また、新規就農されるときはハウスの確保や資金面で大変なこともあります。その点は地元をよく知る私たちが間に入り助けることもできます。なので安心して紀の川アグリカレッジに参加してください！研修に来ていただけることを楽しみに待っています。

豊富にあります。JA出荷、個人販売、生産者で組織された販売グループでまとめて出荷する方法など、販売方法は多種多様です。これだけ販売の選択肢があり、自分の経営規模や状況にあった販売方法を選択できるというのは、イチゴ産地ならではの他の地域にはない強みです。

地域を担う若い人を育てていきたい、
自分も学び成長していきたい

— 紀の川アグリカレッジの話を聞いたとき、どう思いましたか？ —

良い研修制度だと思いました。この研修であれば、これから新しく農業を学ぶ人は、環境制御システムなどの最新農業も学ぶことができます。

私たちはこれまでのやり方をよく知っていますが、最新式のシステムや栽培方法はわからない部分もあります。ゼロから農業を学ぶのであれば最新の知識も研修を通じて吸収してもらえれば、地域を担う農業人材として活躍できると思います。そして新しく農業を学ぶ人これまでの経験がある人、お互いが良い影響を与えられるようになると産地がもっと良くなると思います。

イチゴは収益を出しやすい品目、
収益を出せるからこそ
新しいことができる

— イチゴ栽培の良い点は何ですか？ —

ほかの品目に比べて収益性が高いことだと思います。収益があがるとそのお金を使って新しいことをはじめることができます。

私がパイプハウスから連棟ハウスに作り直すときには投資をしていますが、収益があったからこそできた選択だと思います。

— 紀の川市で農業をやることのメリットはどんなことがありますか？ —

紀の川市はイチゴの産地なので販売網が

自分自身の
意志に従えば、
自然と不安は
なくなる。



(株) ふる一つふあーむわかやま
田中 啓友さん (40代)

- 栽培面積 30a (高設)
- 出身地 紀の川市
- 就農時の年齢 30歳

きっかけは祖父。子どもの好きなイチゴを作ろうと思った
—— 農家になろうと思ったきっかけは何ですか？
ずっと農業をやっていた祖父に頼まれたことがきっかけですね。農業を始める前は営業や飲食関係などでサラリーマンをやっていたのですが、自分の思うようにしたいという想いも強かったため、農業で独立しようと思いました。就農と同時に独立という形になりましたが、自分で考えて動くことが好きなので、自然と不安はなかったです。

紀の川市は新しいことに挑戦する環境がある

—— 田中さんにとって紀の川市で農業をする魅力は何ですか？

若い子同士のつながりがあること、新しいことに挑戦できることですね。何か聞こうと思えば、すぐに聞ける環境があります。ただし、お互いがお互いのことを気にかけてすぎないのも、新しいことに挑戦しやすいです。

イチゴに関していえば、イチゴ部会に入っていて高単価のまりひめを生産できることも魅力ですね。販売も、私は市場出荷

ですがJA出荷や直売所への販売など選べるのも魅力だと思います。

—— なぜ観光農園をはじめられたのでしょうか？観光農園に関して、目標があればそれも教えてください。

関西ウォーカーさんに声をかけていただいたのがきっかけとなりました。やってみるとお客さんもたくさん来てくれて、直接「おいしい」と言われるのが嬉しくて本格的に観光農園を始めることにしました。

観光農園は最終的に会員制にできないかな、とも考えています。

自分自身が楽しみ、
本気になることが一番大事

—— 田中さんの農業へのこだわりを教えてください。

自分が楽しみ、本気で取り組むこと。そうすれば、自然とおいしいものを作ろうと思えますし、おいしいものを作ればお客さんに喜んでもらえる。毎日しんどいは当たり前ですが、その中でできるだけ楽しまいと損だと思っています。

紀のファーム株式会社
林 真司さん (30代)

- 栽培面積 30a (土耕)
- 出身地 紀の川市
- 就農時の年齢 27歳

親元就農してすぐに経営承継。
一番の研修は自分でやること。

親元就農後すぐに独立

—— イチゴ生産を始めたのはいつですか？

農業を始める前はフィリピンに住んでいたのですが、27歳の時、妻の妊娠をきっかけに日本への帰国を決意しました。親がもともと農業をやっていたので、帰国後すぐに就農することにしました。

親がイチゴを生産していたこと、イチゴは収益性が高く、刃物を使わずに食べられるという理由から、生産品目をイチゴに決めました。

—— 就農してすぐに経営承継されたのですね。不安はなかったですか？

どうせやるなら独立したい、という気持ちが強かったので不安はなかったですね。雇われるよりも仕組みを作る側になりたいと常々思っていたので、私には農業で独立がぴったりでした。

10a当たり4〜5t生産

—— 現在の生産規模と収量はどのくらいですか？

イチゴは土耕栽培で30aほど生産しています。他にブルーベリーやイチジクも生産しています。収量は10a当たり5t程度で

農業は生活と密接にかかわる産業。
地域との関わりも大事

—— 農業を行う上で難しいことは何ですか？

農業は他の産業と比較して、地域と密接にかかわってくる仕事です。特に農業に使う「水」などは、みんなで分け合うものなので、地域の方との関係性を大切にしなければなりません。その部分を考えるのは難しいことだと思います。

—— 林さんにとって農業の魅力はなんですか？

会社員時代は、どれだけ頑張っても自分に返ってくることはなかったのですが、農業経営の場合はやった分だけ返ってくることを魅力に感じています。

これまでの経験を
研修生に託したい。

いちご生産農家
増田 文男さん（70代）

- 栽培面積 5a（土耕）
- 出身地 紀の川市
- 就農時の年齢 57歳

昔から手伝っていた農業を
退職きっかけで専業に

——就農のきっかけを教えてください。

両親がもと紀の川市でイチゴ栽培をしていました。私は当時官公庁で働いていましたが、実家に住んでいたのでイチゴ栽培は仕事の傍ら手伝っていました。官公庁を退職するタイミングで両親から引き継ぎ、農業専業になりました。

イチゴの生産は5aと小さめですが、イチゴ以外にも柑橘類（はっさく、せとか、はるみ）、桃、水稲も栽培しています。

生産者とのつながり、

まりひめを生産できること、

他の品目の生産もできることが強み

——栽培技術はどのようにまなびましたか？

県の農業試験場やJAの営農指導課、那賀いちご生産組合連合会が開催する勉強会に参加しています。

紀の川市はイチゴの産地なので生産者グループがいくつもあります。生産者が集まり「今年はどうな病気が出ているのか」「こうしたらうまくいったなどの情報交換する機会も多々あり、そのような会にも参加しています。

JAわかやま 紀の里地域本部

紀の川市のイチゴ生産を
盛り上げたい

——紀の川市のイチゴ農家の特徴を教えてください。

和歌山県全体のうち、約4割がこの紀の川市で生産しています。農家軒数は約100軒くらいです。家族経営で小さくやられている方から、40〜50aくらいで大規模にイチゴの生産をされている方までさまざまです。

昔はもっとイチゴ農家さんも多かったのですが、やはり高齢化とともに年々面積も農家戸数も減ってきているのが現状です。イチゴは収益性が高く消費者ニーズも高い品目なので、もう一度紀の川市

農業を志す方のサポートをしたい

——JAわかやま 紀の里地域本部では、新規就農希望者に対して、どういったサポートをされているのですか？

イチゴにかかわらず、新規就農を希望される方には経営計画や就農に関する想いをしっかりと確認したうえで、農地の貸し借りのサポートなどを行っています。また、こういった作物を作るのが良いかといった相談や、経営計画づくりや資金繰りのサポートも行っています。

——紀の川市でイチゴを栽培するメリットはありますか？

紀の川市でのメリットは、たくさんあります。

生産面では、イチゴ部会という生産者どうしのつながりがあり、最新の栽培情報等について情報交換をすることができ

ます。販売面では、紀の川市はイチゴの産地ということもあり、販売先に困ることはありません。JAに出荷すればその先はしっかりと販売してくれるのも紀の川市ならではの魅力だと思います。

また、紀の川市にはまりひめ（和歌山県内でのみ栽培可能な品種）という品種があります。まりひめは他の品種のイチゴと比べて1パックあたりの取引価格が高く、その価格は年々さらに上昇しています。

イチゴの中でも特に単価の高いまりひめを栽培できることは大きなメリットだと思います。

これまでの知識と経験を
研修生に託したい

——研修生にひとことお願いします！

手を抜いたらそれは成果で現れます。勉強熱心で探求心のある方に来てもらいたいです。これまでの何十年と経験してきたことを研修生に託したいと思います。

で盛り上げていこうという想いから、研修に力を入れていきたいと思っています。

——収量と売上はどのくらいを目指せばよいのでしょうか？

規模によって収量の差はありますが、気候の影響があるので年によっても差が出ていますが、最低でも10a当たり3tは必要だと思います。もちろん、もっと上を目指してほしいですし、実際に大規模に生産されている方は4〜5tくらいとられていますね。

3t収穫できたとして、1500円/kgで販売すると450万円程度の売上になります。まずはこの最低ラインを目指してもらえればと思います。新規就農で独立される方でも十分目指していただける指標です。

県外からの応募も大歓迎

——就農を検討している方に、ひとことお願いします！

農業は自然相手の仕事なので、いいことばかりではないです。毎年同じようにすればできるものでもないの、少し覚悟があるかと思っています。ただ、それを理解したうえでやはり農業をやりたいと思っただけければ、全力でサポートさせていただきます。

JAの経験と
知見を活かして
全力でサポートしたい。

夫婦ふたりで初期投資500万円で
はじめるイチゴ農家紀の川アグリカレッジ1期生
前田 完さん 苑子さん

- 出身地：大阪府
- 前職：会社員
- 家族構成：夫、妻
- 研修開始時の年齢：30代
- 栽培方式：土耕栽培
- 栽培面積：7a



夫婦で歩む「イチゴ農家への道」

同じ会社で働いていたものの、シフト勤務制のため一緒にいる時間が少なかった前田夫妻。ふたりで過ごせる貴重な休日には、紀の川市へ足を運ぶのが楽しみでした。果樹畑や田んぼが広がる風景に惹かれ、「いつかこの地で暮らしたい」という思いが芽生えていきました。

紀の川市には農業で生計を立てる人も多く、ふたりの関心も農業へと向かうように。イチゴは、広い農地がなくても工夫次第で収益があげられる可能性があるのと知り、説明会や視察会を経て研修への参加を決めました。

「ふたり」で研修するメリット
知識と覚悟を共有できる

夫婦で就農するということは、ふたりで「農業という事業」を始めるということ。「夫婦だからと甘えることなく、それぞれが独立就農できるレベルの栽培知識を習得するという強い意思をもち、勉強を続けてきた」と苑子さん。夫婦で学ぶことで、作業の精度や経営判断の柔軟さが増し、結果的に就農後の経営の強みにもつながります。

最小限の設備投資で新規就農の夢を形に

就農時は初期費用を抑えるため、自分たちの時間と体力を最大限に使って節約。「できることは自分たちで」という姿勢が経費削減につながりました。

地域の方々とのつながりも、費用を抑える上で大きな助けになっています。ふたりだけでは時間がかかる作業を手伝ってもらったりすることも多いそう。「仲間がいてありがたい」と実感しています。

夫婦で続けていける、
手の届く農業経営を展開

就農当初は市場出荷を想定していましたが、現在は地元の産直マーケットへの出荷が9割を占めています。

自分たちの手がしっかり届く範囲で、品質の高い栽培を維持することを重視しています。

来シーズンからは、本圃面積を徐々に広げていく計画です。

将来的には「苗づくりのスペシャリスト」としての道も見据えています。近年の猛暑による影響で、全国的にイチゴ苗の育成が難しくなっており、苗不足で出荷できないケースも増加。そんな中、自分たちが安定した苗を供給することで、地域ブランドのイチゴ「まりひめ」の産地全体を支える存在になりたいと考えています。

紀の川アグリカレッジ1期生
藤田 大介さん

- 出身地：大阪府
(申込時は東京在住)
- 前職：大手証券会社
- 家族構成：妻、子
- 研修開始時の年齢：30代
- 栽培方式：高設栽培
- 栽培面積：10a

金融マン、
イチゴ農家になる！
起業に農業を
選んだ理由独立・起業を目指してたどり着いた
「農業」という選択肢

いつかは独立し、起業したいと考えていた藤田さん。妻の実家がある紀の川市での定住を考え、東京のふるさと回帰支援センターを訪問。農業という新たな道への第一歩となりました。

「子供が生まれたばかりで、新しい世界に飛び込むことへの躊躇もありましたが、イチゴの施設栽培では環境を科学的に制御する技術が発展していることを知り、ゼロからスタートする自分にもできるのではないかと思いました」

未経験者でも成功できるチャンスがあると確信した藤田さんは、家族の同意を得るために、和歌山県のブランドイチゴ「まりひめ」の単価推移や売上データを示して説得。最終的には研修先の経営者が妻の同級生だったこともあり、直接話を聞く中で信頼を得ることができました。

研修と就農を通じて得た
「農業」への確かな手ごたえ

研修ではイチゴ農家の基礎を徹底的に学び、オンラインも含め、他府県農家と交流する機会を得て、広い視野を持つことができた振り返ります。

農業経営のリスクヘッジの重要性にも目を向けるようになり、イチゴと並行し

てレモンの栽培を検討。

また、地域の農業関係者と信頼関係を築いた結果、引退予定の農家からスムーズに農地を継承。資金についても、複数の補助金を利用することで自己投資を抑えることに成功しました。

農業は、努力が結果につながる
自由度の高いビジネス

気候変動の影響を受けやすい農業ですが、施設栽培では安定した成果を上げることが可能です。藤田さんも積極的に新技術を導入。

「販売戦略をさらに工夫して、現在の1.5倍の収入を目指したい」とのこと。すべてが自己責任となる厳しさもありますが、「だからこそ、頑張った分だけ結果が返ってくる」とやりがいを感じています。

起業を考えているなら
「農業」は有力な選択肢のひとつ

気合いと根性はもちろん必要ですが、素直に学び、信頼できる仲間をつくることが何より大切です。農業は、初期投資は高額になりますが、補助金などのサポートも手厚いです。技術の進化で10a規模の設備投資でも収益が上げられ、未経験者にもチャンスが広がっています。本気で取り組めば、道は開けます。

60歳で就農を予定していた僕が
35歳で農家になった理由紀の川アグリカレッジ1期生
三木 真隆さん

- 出身地：大阪府
- 前職：ITエンジニア
- 家族構成：妻、子
- 研修開始時の年齢：30代
- 栽培方式：高設栽培
- 栽培面積：17a

農学部からITエンジニアを経て
「農家」へ転身

大学では農学部在籍し、日本の農業が持つビジネスとしての可能性に魅力を感じていましたが、実家が農家ではなかったこともあり、ITエンジニアに。将来的には、ITの経験を農業に活かしたいという思いは、ずっと持ち続けていました。

もともとは定年後に農業を始めるつもりでしたが、若いうちに地域に根ざす方が受け入れてもらいやすく、長く続けられると考えました。収益性の高い作物を調べる中で、イチゴは高単価で販路開拓もしやすく、管理によって品質を高めやすい作物と知り、イチゴでの就農準備を本格化させました。

紀の川アグリカレッジを選び、
信頼できる研修先農家と出会えた

紀の川アグリカレッジを選んだ理由の一つは、運営母体が自治体で安心感があったこと。少人数制で、同期との情報交換や相互刺激も期待できる環境でした。現地視察会で研修先農家の経営スタイルや栽培方法を比較できたのは研修先選びの大きな判断材料となりました。

ハウスの確保は研修先農家からの紹介がきっかけで、良心的な価格で確保することができました。

就農後、初めての試練
環境設備の大切さを痛感

就農後も研修先農家との関係は継続。ときには意見を求められることも。経営面についても相談できる存在で、「困ったときにすぐ頼れるのは本当にありがたい」と語ります。

就農1年目の春、気温の急上昇によりハウス内が高温となり、ミソバチが受粉できず奇形果が多発する事態に。売上は落ち込みましたが、自らジューズ用の販路を確保し、出荷につなげました。原因は換気構造にあり、すぐに工事を実施。「就農前に風の流れや温度管理を体感しておくことの大切さを痛感しました。栽培技術だけでなく、環境制御も農業には欠かせません」

定年後では遅すぎる。
農業を始めるなら今！

事前にある程度資金の蓄えが必要なのは確かですが、それさえ準備できれば不安は大きくないといえます。

農家の高齢化が進み、借りられる農地も増えてきています。農業を始めるチャンスはまさに今です。興味があるなら、ぜひ飛び込んでみてください。

公務員からイチゴ農家へ！
元同僚の女性二人で始める 生涯の仕事紀の川アグリカレッジ1期生
masmasplus+farm
扶蘇 美香さん

- 出身地：大阪府
- 前職：地方公務員
- 家族構成：単身
- 研修開始時の年齢：30代
- 栽培方式：高設栽培
- 栽培面積：13a

17年間の公務員生活に
終止符を打ち、イチゴ農家をめざす

コロナ禍をきっかけに家庭菜園をはじめ、手をかけた分、成果として目に見えるかたちで返ってくる「農業の魅力」にひかれ、就農を本気で考えるようになりました。情報を集め、約2年かけて準備。支援体制が整っていて、ここならやっていけそうだと感じたことが決め手となりました。

農業を始めるにあたり、前職の先輩をパートナーとして誘い、ふたりでいちご栽培を始める計画を立てていたといいます。まず、扶蘇さんが先に退職して単独で農業研修に参加しました。

イチゴ農家への第1歩
研修先農家で栽培スタイルを見極める

研修先では高設栽培と土耕栽培の両方を学び、自分に合う方法を見極めることができました。また、観光農園や6次産業化など新たな事業の立ち上げに立ち会うことができたのも貴重な経験となりました。

ゼロからの就農ストーリー
農地確保から販路選択のリアル

自ら地域を歩き、農作業中の人に声をかけながら農地探しを行い、最終的には

生産から6次産業化まで
トータルで描く農業の未来

将来は、加工品や農家カフェなど6次産業化にも取り組む計画です。それに向けて、加工品の製造販売に必要な手続きや、農園ロゴの商法登録申請も進める予定です。視覚的なデザインにも細やかな工夫を凝らし、女性ならではの柔軟な発想を経営に活かしています。

「考えに考えた末に『やりたい』と思えたら、きっと大丈夫です。どんなに転んでも、思いがあれば手を差し伸べてくれる人や仲間もいます。まずは『一歩』を踏み出してください。」